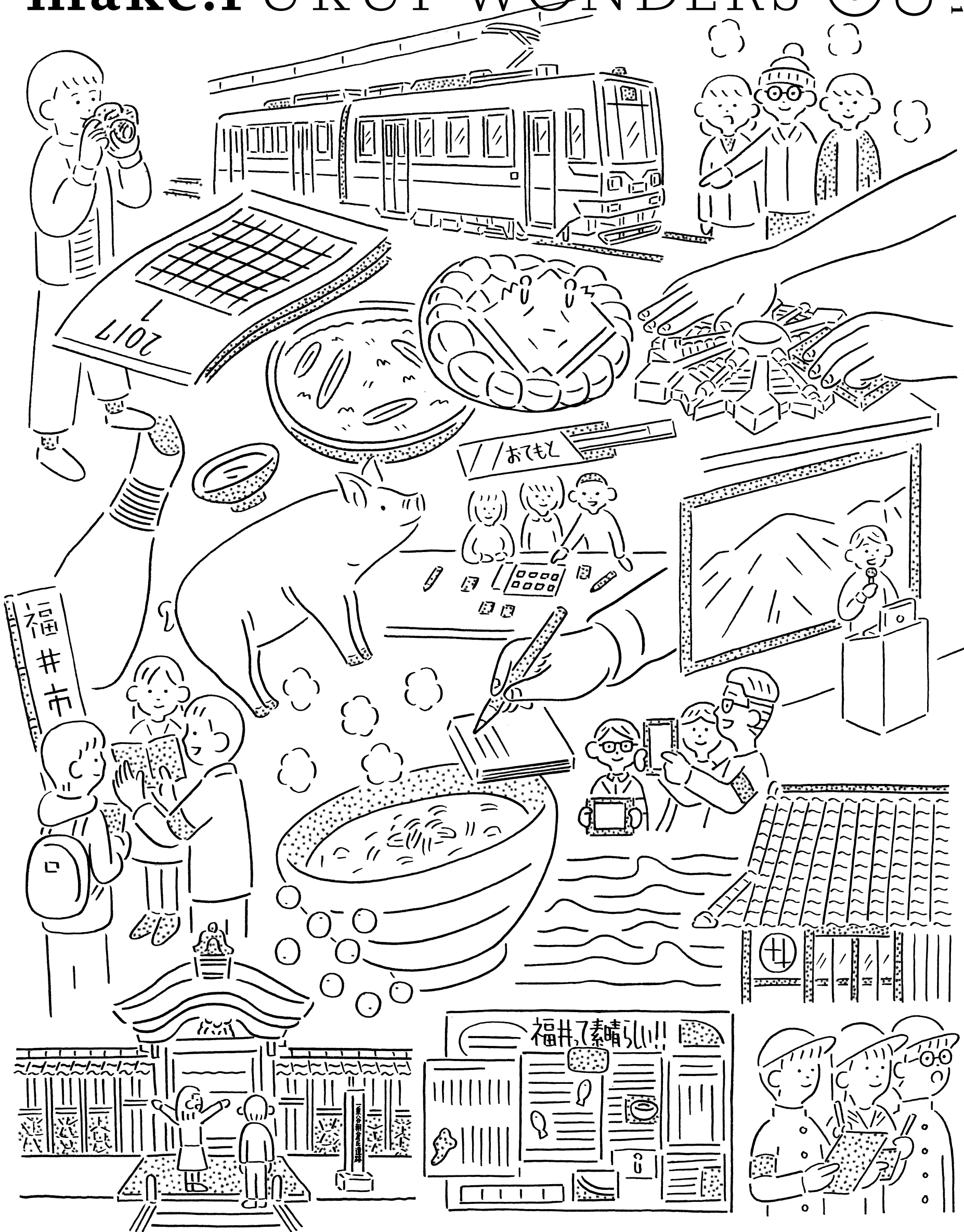




make.f PROJECTを知るQ&A

2016年秋より始動したmake.f PROJECT。福井市を舞台に、5つのプログラムを立ち上げ、福井の魅力を可視化し、未来につないでいく試みです。ここでは、make.f PROJECTに関する5つの質問にお答えします！

Q1 未来につなぐ ふくい 魅える化 プロジェクト make.f PROJECTってなに？

まちの魅力をさまざまな視点で見つめ、
新たな人の流れを生み出す試みです！

「福井でつくろう、福井をつくろう」をテーマに、まちの魅力や価値の可視化を通して、地域を超えた“新たな人の流れの創出”を目指し、始動したプロジェクトです。さまざまな世代を対象としたプロジェクト、独自メディアの運営・発信をすることで、福井に暮らす人々には暮らしの中での再発見を、まだ福井を知らない人々にはまちと出会うきっかけをつくっていきます。世代や地域を超えたたくさんの人が行き交い、これからの生き方や働き方、関係性を育む未来の地域のあり方を、この福井市を起点に実践し、発信していきます。「魅える化」は、「見える化」するだけでなく、「福井の魅力をさらに増幅させ、多くの人たちを魅了し(ファンをつくり)、福井の未来を描くこと」を目指しています！

Q2 福井が舞台となっているのはなぜ？

長きにわたって福井に培われてきた、
「古きを温めて新しきを知る」姿勢から、
次代の生き方・働き方を考えるためです。

日本列島の「へそ」に位置し、豊かな自然環境に恵まれた福井市。生活環境や教育の満足度、社長輩出率日本一といった人材の豊かさ、共働き世帯・女性有業率日本一など、全国的にも社会環境の豊かなまちです。また市を代表する繊維産業では、新たな発想で革新を続け、「編み」の技術を医療の現場で活躍させるなど、世界からも注目を集めています。ここ数年では、Uターン者をはじめ、地元の若い人たちが福井市の持つ資源を活用した、新たな価値を生み出す試みが生まれ、少しずつ“未来の福井”が顔を出しはじめています。……とは言え、福井に暮らす人々にとっては、当たり前すぎることで、特に驚くことはないかもしれません。でも実は、これらの背景を支える豊かな風土・文化・知恵・技術、それらを新たな価値へと転換する姿勢にこそ、少子高齢・人口減少の続く日本が理想とする“未来のあるべき姿”のヒントが隠れているのではないのでしょうか。これからの生き方・働き方を模索する場として、また想像／創造の場として、まだまだ知られざる魅力を隠し持つ福井市が舞台になっています。



Q3 どんな活動をしているの？

多分野の創造的な人材が参加する、
5つのプログラムを実施しています！

福井市内外にいるさまざまな背景をもつクリエイティブな人材や大学生、福井を拠点に暮らし・働く社会人、中高生が福井の魅力に触れ、新たな価値を生み出す、4つのプログラム+お試し移住企画を展開中です(*詳細は右欄参照)。福井市と都市圏の共創的なプログラムを通して、それぞれの視点で、このまちを感じ、考え、未来を紡ぐ仕組みを構築中です。



Q4 どこで活動が知れるの？

Webサイト・タブロイド・映像・SNSと、
4つの媒体を使って情報発信しています！

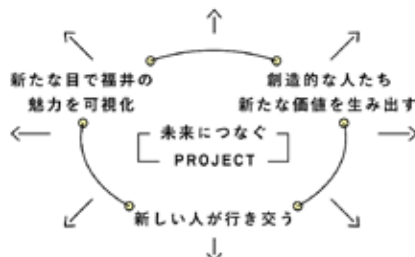
より広く、より深く、より楽しく！伝えていくため、
媒体の特性を生かした情報発信を行っています。



Q5 このプロジェクトが目指す未来は？

多角的な視点で福井の魅力を可視化し、
創造的な人たちと新たな価値を生み出し、
人の流れや仕事をつくり出すこと！

福井内外の人が行き交い、創造的な人々がつながることで、福井の魅力を活かした大きな価値が次々と生み出される状況を目指しています。



PROJECT 1

XSCHOOL

“革新を続ける伝統のもののづくり”が根づく福井を舞台に、事業創造マインドを備えたデザイナー像を育む小さな教室。地場産業とともに、次代の“種”を生み出します。



PROJECT 2

メークファイト!!!

福井の地域資源をテーマにした関東・関西の学生対抗アイデアソン。都市圏大学生たちは未知のまち福井から、挑戦的なビジネスアイデアを生み出していきます。



PROJECT 3

次代の“あたりまえ”な働き方研究所

魅力的な企業アンバサダーの生き方から、多様性のある働き方を考えるプログラム。企業アンバサダーが、「幸福度日本一」の福井で暮らす・働く魅力を発信します。



PROJECT 4

福井の幸せみつげよう取材の旅

地元の高中生が福井の魅力を見出す企画。5つのチームに分かれ、人や場所への取材を通して、食や自然、観光、働き方など隠れた福井の強み・面白さに触れ、“地元愛”を培います。



EXTRA PROJECT

冬の日本海トライアルステイ

福井の海暮らしを体感するトライアルステイ企画。沿岸部の越廼地区を拠点に冬の日本海を望みながら、福井で暮らす・働くを体験し、福井の魅力と可能性を発見します。

小さな教室のための“いい三箇条”

……次代を切り拓く事業を創造する、デザイナー・事業家の育成を支援する小さな教室・XSCHOOL。協力企業の株式会社にしばた、株式会社番匠本店、株式会社廣部硬器3社とともに、既存の概念にとらわれないもの・こと・仕事づくりを模索中です。講師3人が考える、この教室の魅力とは？



デザイナー
原田祐馬さん

UMA/design farm代表。文化や福祉、地域に関わるプロジェクトを中心に、「共に考え、共に作る」を実践。京都造形芸術大学空間演出デザイン学科客員教授。



ウェブデザイナー
萩原俊矢さん

ウェブデザインやネットアートの分野を中心に活動し、企画から実装・運営までウェブに関わる仕事を包括的に行う。IDPW.org 正会員、多摩美術大学総合デザイン学科非常勤講師。



プロダクトデザイナー
高橋孝治さん

無印良品にて、生活雑貨の企画デザイン、防災プロジェクト「いつものもしも」のディレクションなどを実践。2015年に愛知県常滑市へ移住、地域で企画開発を行っている。

その一 環境がいい！

原田：XSCHOOL がはじまって3ヶ月が経ちました。今回は福井在住の方は数名で、関東や関西からの参加がほとんど。僕も大阪から通っていますが、今では福井に来ること自体が楽しみになってきました。

萩原：都市の規模もちょうど良いですね。毎回のように地元企業や市役所、新聞、テレビ局が顔を出してくれて、応援してくれている。遠方から通う受講生たちも時間をかけて通うだけ覚悟してきているし、その気迫が地元・福井から参加する人たちの気持ちに火をつけて、心を動かしているようにも思います。

高橋：この環境って、南米や欧州などのサッカークラブのチャンピオンが日本で世界一をかけて戦う、トヨタカップみたいですね(笑)。ゆかりのある場所ではないけれど、自分自身と真剣に向き合うための場。

萩原：そうですね。そういった条件や環境が、参加する人みんなを「自分ごと」にさせる理由なのかも。

原田：毎回JR福井駅の真真正面という最高の立地で集まって朝から晩まで議論を重ね、さらに真夜中には美味しい酒を片手に語り合える。いいですね！

その二 プロセスがいい！

高橋：これまで3人1組の8チームそれぞれが、福井を舞台に、新たな事業やプロジェクトを立ち上げるべく、試行錯誤してきました。「よし、いける！」と前進していたかと思うと、壁にぶつかり、アイデアを白紙に戻して、しょんぼりしたり……。そういう過程を参加するみんなで共有しながら進めるというのも、とても面白いですね。

萩原：いまや全国各地で、その土地・地域特有のユニークな取り組みがあるなか、さらに、これからの生き方とは？働き方とは？と悩みながら、プロジェクトを立ち上げようとしている。みんな悶々としていますよね。

原田：そうですね。僕は何事においても悶々と悩むことって、本当に大切だと思うんですよ。答えの無いことに対して、どれだけ真剣に向き合えるかが力になる。

萩原：だからこそ一発ホームランの構想を打ち出すというよりは、実際に動きだしてから常に周りを見る観察力、また変化に対応できる柔軟さは重要ですね。

高橋：うんうん。ここで悶々としながらも真摯に向き合い超えた壁があれば、それぞれのフィールドに戻ったとき、新たな選択肢や可能性が生まれるはずだと思う。

その三 フルスイングしていい！

原田：最近、回を重ねるなかで、少しずつ受講生のみんなが頭でっかちになってきている印象がありますね。

萩原：たしかに。協力してくれる企業との対話のなかで、期待に応えようとお利口さんになりすぎて、せっかくの輝きをなくしてしまうのも、もったいないと思います。

高橋：「もう時間ないし、やること決めよう」って(笑)。よく原田さんは「空振りしていい」って言いますよね。

原田：そうそう、もっとトライ＆エラーを繰り返したらいいんですよ。フルスイングで挑戦することが大事。

高橋：普段の仕事だと、見えない圧力に追われて、与えられた時間でアウトプットして、失敗できないことも多い。だからこそ僕たち講師は、彼らが失敗を恐れず、恥ずかしい思いをすることも厭わず、思い切り表現できる下地をつくっていかないとはいけませんね。

原田：数値化できる価値をめざすことも大事ですが、まだ誰にも気づかれず、言語化もされていないけれど確かに熱のある、ワクワクできる状況やプロセスを育てたり、価値づけたりすることも大切だと思うんです。XSCHOOLはその実験の場でもあるんじゃないかな。

XSCHOOL 推薦図書

『ファンタジア』著・ブルーノムナリーノ／訳・萱野有美(みすず書房／2006年) [原田氏選]、『虫眼とアニ眼』著・養老孟司、宮崎駿(新潮社／2008年) [萩原氏選]、『地元学をはじめよう』著・吉本哲郎(岩波書店／2008年) [高橋氏選]

PROJECT 2 メークファイト!!!



リサーチ対決 番外編 その1

福井の資源ってどんなもの？ 大学生が発掘・調査してきた、知られざる福井の魅力を紹介！

企画したのは……

HARAチーム

小谷幸愛、木藤修兵、三木直也、山下毅洋
／京都大学・福井大学

福井市木田地区で栽培される伝統野菜、木田ちそ(シソ)。金沢大学が「ロズマリン酸研究プロジェクト」と題して、認知症予防と治療の有用性を実証する研究を行っているが、木田ちそは抗酸化成分・ロズマリン酸の含有量が極めて高いのがポイント。

企画：鬼ごっこマラソン

給水所で木田ちそジュースを提供するマラソン。効能だけではなくつくり手の現状について語るトークも企画。

木田ちそ



認知症を予防する?!



黒龍吟醸豚

ほろ酔いで育て上げた?!

企画したのは……

ドラクンピッグチーム

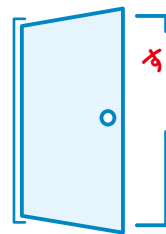
江原美佳、廣瀬花衣、藤本一希、村上隼里
／慶應義塾大学・福井大学

福井の地酒・黒龍の酒粕を食べ、ストレスに育った柔らかく上質な肉をもつ「ほろ酔い豚＝黒龍吟醸豚」。取り扱われている店舗も少なく、福井市中央卸売市場の一角に直売店があるのみ。製品の品質を保つため、育てる豚の数に限りをつけている。

企画：やきにくや「ドラクンピッグ」

福井の人に、ほろ酔い豚のコアファンになってもらえるお店。黒龍とセット販売するなど背景を語るメニューを作成。

PROJECT 3 次代の“あたりまえ”な働き方研究所



お悩み相談室

人生、無理難題にぶち当たることは多々あります。あなたのピンチを救うのは、福井で働く先輩たちかも?!



実は、地方での転職を考えています！

地元福井を飛び出し、都会で就職したものの、家と会社の往復ばかり。Uターンも考えたけど、福井で働くことがイメージできなくて……(涙)。

そんなあなたに……

社員と経営者の距離が近いのは、福井の企業ならではの。想いをダイレクトに伝えられる環境で、私も新規事業に挑戦できました。都会でのキャリアを活かし、よりスピーディーな体制だからこそ実現できる仕事を見つけてみませんか？

今号のおたすけ研究員

小川陽子さん

福井経編興業
経営管理部総務課 専務秘書

着付けやマナー講師を経て入社。秘書業務と並行し、医療関連新部門の立ち上げ拡大に携わる。



今号のおたすけ研究員

山本和紀さん

ジャパンポリマーク
営業部係長

営業の管理職兼プレーヤー。タイやベトナムの縫製工場への指導など県外や海外出張も多い。



そんなあなたに……

海外生活を経験し、あらためて福井は特に良い環境だと感じました。自然が近く、食べ物がおいしくて、家族が近くにいて。そして福井の企業でも、ちゃんと世界にチャレンジすることもできる。福井から世界へ、かっこいいと思いますよ！

そんなあなたに……

東京時代は働きまくって人生の意義を見失いそうだったけれど、今は仕事と生活が、ちょうどいいバランス。福井は20代後半からの結婚・子育て世代には最高な環境！ その証拠は、東京時代には想像もつかなかった3人の子どもです。

今号のおたすけ研究員

伊部浩章さん

福井銀行
経営企画Gチャネル戦略PT企画役

東京でシンクタンク勤務などを経て、5年前にUターン。「フィンテック」戦略などに従事。



中高生記者は見た！

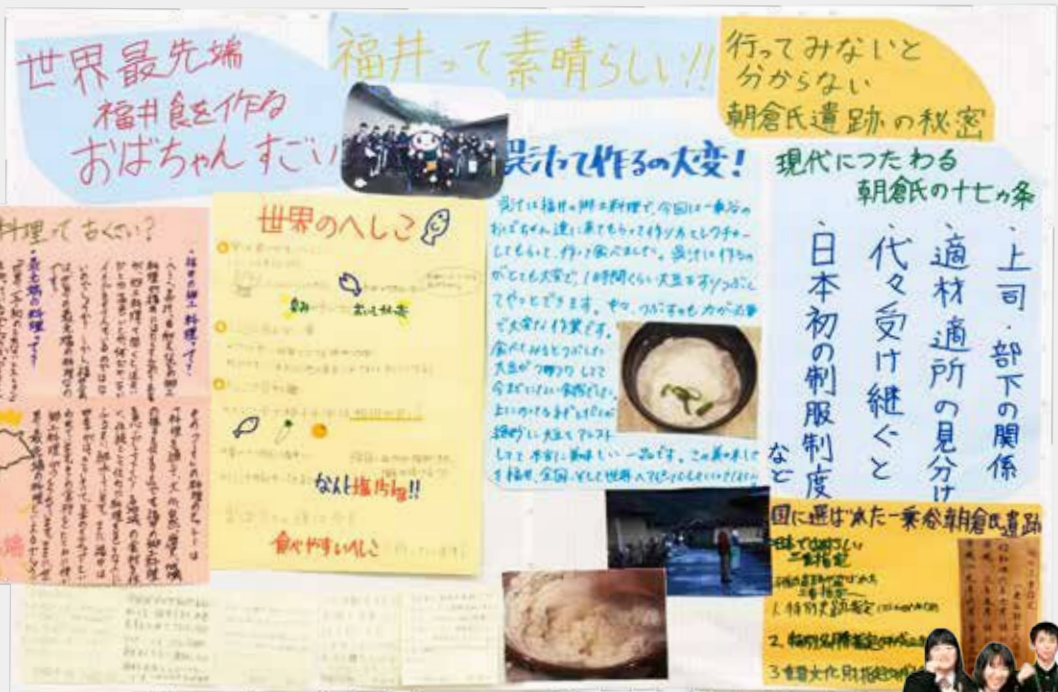
取材メモから
紐解く未来の福井

福井の郷土料理は最先端！

世界一と言われる北欧のレストラン「ノーマ」は、「料理を通して、文化、自然、歴史、地域の様子を伝えること」をモットーだと聞いて「それってまさに福井のおばちゃんたちが日々やっていること！」と気づきました。へしこや呉汁、白和えなどなど、福井の郷土料理をふるまい、伝えていくおばちゃんたちこそ世界最先端！

へしこをつくるおばちゃんたちの優しさ！

大量の塩で漬けた後、糖漬けにした福井が誇る越冬のための保存食。つくり方によっては、くさみが出てしまった、塩辛過ぎたりと手加減が難しい。それでもみんなに食べてもらいたい、いろんな食べ方を考えて実践しているおばちゃんたちはすごい！



手間ひまかった呉汁のおいしさ！

福井の郷土料理のひとつ。一乗地区のおばちゃんたちにつくり方をレクチャーしてもらいました。大豆を約1時間かけてすりつぶし、出汁とネギを加えてできる呉汁は、フワフワの食感。おいしくてとりあえず何杯もおかわり。



一乗谷朝倉氏遺跡は特別な場所！

織田信長によって3日3晩焼き尽くされた都市。国から特別史跡指定（昭和46年）、特別名勝指定（平成3年）、重要文化財指定（平成19年）と、3つの指定を受けている、日本でも稀な場所。

新聞制作・関ひかり、巻田恵理奈
大久保玲佑、岩佐裕、内田大希



make.f PROJECTの出来事をちらりとご紹介



10月29日
「地域仕掛け人市2016」ブース出展 PJ3



10月29日
「地域仕掛け人市2016」企業プレゼン分科会 PJ3



10月30日
一乗谷朝倉氏遺跡フィールドワーク PJ2



10月30日
伝統野菜木田ちろ生産者取材 PJ2



10月30日
東西プレゼンバトル決勝戦 PJ2



11月3日
(株)松浦機械製作所見学 PJ4



11月3日
チームごとの新聞づくり PJ4



11月12日
(株)番匠本店にて商品リサーチ PJ1



11月12日
(株)廣部硬器見学 PJ1



11月12日
チームごとのアイデア出し PJ1



11月13日
郷土歴史博物館学芸員・藤川氏とまち歩き PJ1



12月14日
改修後の「越廬の家」内観 EXTRA PJ

EXTRA PROJECT

冬の日本海トライアルステイ

その心は？

福井市内から車で40分。トライアルステイの舞台・越廬の家は、福井県北部、福井市南西端の越前海岸沿いにある。日本海を臨む立地と聞くと、「やだ、寒そう!」と思ってしまうかもしれない。しかし、なんとこの家には、そんな寒さ

も吹き飛ばす素晴らしい魅力が！
福井市から車で40分。トライアルステイの舞台・越廬の家は、福井県北部、福井市南西端の越前海岸沿いにある。日本海を臨む立地と聞くと、「やだ、寒そう!」と思ってしまうかもしれない。しかし、なんとこの家には、そんな寒さ



information 越廬の家

所在地：福井市越廬地区（居倉町）
面積：163.5m² 建築構造：木造
築年数：約100年 建物階数：2階
1階＝キッチン・3室（8畳和室×2、8畳洋室）・浴室 2階＝リビング・2室（8畳和室×2）

たのしみは温泉つかり波の音
たしなむお酒日々味わうとき



独楽吟とは？

現福井市に生まれた歌人・橘曙覧が昭和9年に編纂・発行した歌集。「たのしみは」からはじまり、「のとき」で締める歌で構成されている。

Illustration: Shingo Minamide

実施主体：未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト

主宰：福井市 協力：福井大学産学官連携本部、株式会社福井銀行、株式会社福井新聞社 運営：株式会社リ・パブリック、株式会社福井新聞社

『make.fUKUI WONDERS』

発行日：2017年1月18日 発行元：福井市 監修：株式会社リ・パブリック、株式会社福井新聞社 編集ディレクション&編集：MUESUM（多田智美、永江大） アートディレクション&デザイン：UMA/design farm（原田祐馬、西野亮介、平川かな江） 撮影：出地瑠以、片岡杏子

未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト

make.fUKUI WONDERS

<http://makef.jp/>